



虫に刺された

まずは、下記の応急処置を行いましょう。

1. 速やかに安全な場所(遠くの建物内)に避難しましょう。
2. 流水(水道水)で患部をよく洗いましょう。
3. 針が残っている場合は、針がよく見えるように患部を指でつまんで、ピンセットや毛抜きでつまみ取りましょう。
4. 毒を絞り出すように患部を圧迫して洗い流しましょう。
5. 保冷剤や氷のうなどで、患部を冷やしましょう。
6. 手足を刺された場合は、毒が全身に回らないように、心臓よりも高い位置に上げておきましょう。

次のうち、どの症状が見られますか？

- 元気がなく、ぐったりしている。
- 呼吸が荒く、苦しそう。
- 顔色・皮膚色が悪い。
- 意識がおかしい。
- 全身にじんましんが出ている。
- 吐いた。

この欄に1つ以上「はい」がある

救急車を呼びましょう!

- 蜂に刺された
- 大量に刺された
- 赤く腫れ上がって、痛がっている。

左の欄に「はい」はなく、この欄に「はい」がある

休日夜間急患診療所を受診しましょう。

診療時間外の場合

- 腫れがひどい。
- かきこわして広がったり、ジュクジュクしている。

この欄にしか「はい」がない

様子を見ながら、翌日、かかりつけ医を受診しましょう。

症状が急変した場合

救急電話相談ダイヤルに相談しましょう。

名 称：とっとり子ども救急ダイヤル

電話番号：#8000 (ダイヤル回線・IP電話の場合は0857-26-8990)

相談受付時間：24時間365日



観察のポイント

- 虫に刺された場合、主に次のような症状が現れます。
 - ・かゆみ ・痛み ・腫れ ・水ぶくれ など
- 軽症で済む場合がほとんどですが、毒性の強い虫に刺されると、じんましんや呼吸困難などの全身症状が現れることもあります。
- 蜂以外の虫に刺された場合は、ひとまず市販の虫刺されやかゆみ止めの薬を塗っても構いません。ただし、なかなか腫れがひかない、かゆみがひどいなどの場合は、かかりつけ医を受診しましょう。
- 子どもが虫に刺されても、かゆみや痛みが少なく、機嫌よく過ごしていれば、しばらく様子を見ても構いません。



お医者さんに伝えてほしいこと

- 「いつ」、「どこで」虫に刺されましたか。
- 刺された虫の種類は何か。
(例：蜂、蚊、毛虫、ムカデ など)
- 患部の状態はどうか。
(例：かゆみ、痛み、腫れ、水ぶくれ など)
- 虫に刺された以外の症状はあるか。
(例：けいれん、吐く など)